

論 文

大学生の自校史教育に対する評価と自校認識の変化に関する考察

小宮山 道 夫

はじめに

前号において広島大学文書館が提供する自校史教育授業「広島大学の歴史」の平成一三(二〇〇一)年から平成二二年までの一〇年間の受講者のアンケートデータをもとに、学生たちの自校史教育に対して抱く期待や需要について分析した。<sup>①</sup> 低年次向けの教養教育で選択必修科目となっている科目群のひとつである「広島大学の歴史」に対し、学生たちの受講理由の多くが自身の所属する広島大学の歴史に興味を持ったことにあり、大学構成員の一員としての自身のあり方を確認するために受講していることが、分析により明確となった。そして自身の所属する、あるいは将来的には母校となるであろう広島大学について、「人に説明できるようにしたい」と思っているし、「誇りを持ってそうだから」と、歴史を学ぶことを選択しているのである。さらに「広島大学の歴史」のような大規模教室での講義を学生たちは単純に楽勝科目として興味を示し、受講しているのではないという点は重要であった。そこで本稿においては、このような受講理由をもった学生た

ちに対し、「広島大学の歴史」がその期待に応えることができているかどうかについて、前稿と同様に一〇年間の受講者アンケートデータをもとに明らかにすることを目的とする。

一．アンケートの実施方法と回答数について

本講義では、期末レポート(平成二二年度のみは期末試験)終了後に、レポート提出者及び試験受験者に対し任意による専用WEBページを利用したアンケートを平成一三年以来、毎年度実施している。アンケート内容は次のとおりである。<sup>②</sup>

受講者各位

半期間の受講お疲れさまでした。当講義「広島大学の歴史」はいかがだったでしょうか。

さて、次年度以降の当講義をより充実したものとするため、ア

ンケートを実施させていただきます。皆様から寄せられた回答をもとに、講師一同、より一層の授業改善に取り組み予定ですので、是非ご協力願います。

なお、アンケートの回答内容は、成績評価に対してプラスに作用することはあってもマイナスには作用しませんので、忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

以下の設問にお答え下さい(全て必須項目ですのでご注意ください)。

- お名前(記入ボックス)
- 性別(記入ボックス)
- メールアドレス(記入ボックス)
- 学部(記入ボックス)
- Q一. 講義内容の難易度はいかがでしたか。「ラジオボタン」かなり難しかった「+2」 難しかった「+1」 適度だった「0」 易しかった「-1」 かなり易しかった「-2」
- Q二. テーマを見て想像した内容と実際の内容との関係はいかがでしたか。(ラジオボタン)  
期待通りだった「+2」 ある程度は期待通りだった「+1」  
どちらでもない「0」 あまり期待通りでなかった「-1」  
全く期待はずれだった「-2」
- Q三. 講義内容は興味深いものでしたか。「ラジオボタン」  
とても興味深かった「+2」 興味深かった「+1」  
どちらでもない「0」 あまり興味がわかなかった「-1」

全く興味がわかなかった「-2」

●Q四. 機材の使用など講義方法に工夫を感じましたか。「ラジオボタン」  
とても工夫されていた「+2」 工夫されていた「+1」  
どちらでもない「0」 あまり工夫されていなかった「-1」  
全く工夫されていなかった「-2」

●Q五. 配付もしくは提示されたプリント及び資料に満足できましたか。「ラジオボタン」  
とても満足した「+2」 満足した「+1」 どちらでもない「0」  
あまり満足しなかった「-1」 全く満足しなかった「-2」

●Q六. 受講したことで広島大学に対する認識は変わりましたか。「ラジオボタン」  
とてもそう思う「+2」 そう思う「+1」 どちらでもない「0」  
あまりそう思わない「-1」 全くそう思わない「-2」

●Q七. 前項目「Q六」で回答した内容について、その理由を具体的に書き下さい。

●Q八. この講義で良かったことは何ですか。

●Q九. この講義で改善すべきことは何ですか。

●Q一〇. 他の学生にもこの講義を勧めたいと思いますか。「ラジオボタン」  
とてもそう思う「+2」 そう思う「+1」 どちらでもない「0」  
あまりそう思わない「-1」 全くそう思わない「-2」

●Q一一. 最も興味深かった講義内容について具体的にお書き下さい。

わい。

- Q一二: 講義を受けていて理解できなかった内容についてお書き下さい。

- Q一三: 講義で扱われた内容のうち、もっと知りたかったことをお書き下さい。

- Q一四: 今後開設が望まれる講義内容(広島大学について知りたいこと)は何ですか。

- Q一五: 広島大学への提言をお書き下さい。

- Q一六: その他気づいたこと、感想など、ご自由にお書き下さい。

分析にあたっては、前稿と同様に一〇年間の受講者全一、八六四人のうち、二年次生のみ一、五一八人(一〇年間の受講者全体の八一・四%)を対象とし、本稿では更に該当調査項目についてアンケート回答のあった一、二三七人(一〇年間の受講二年次生全体の八一・五%)のデータを分析対象とする。<sup>4)</sup>

このデータをもとに学生たちが自校史教育に対してどのような興味を覚え、受講によってどのような充足感を得ているのかについて考察する。なお、学生の文章の引用に当たっては、算用数字を漢数字に直す以外は誤字を含め一切手を加えなかった。但し文章中に「上に述べたとおり」などと注記が必要な文章については「」を付して文中に補足した。文末に「」を付して所属学部・性別・受講年を示した。所属学部については以下の略称を用いた。

総科…総合科学部、文…文学部、教育…教育学部、法…法学部、

経済…経済学部、理…理学部、医…医学部、歯…歯学部、薬…薬学部、工…工学部、生…生物生産学部

## 二. 講義に対する数値評価について

### (1) 平均値の分析

ここでは最終アンケートにおける設問一〜六および一〇の七項目の数値評価の結果について記述する。各項目については、「Q一: 講義内容の難易度はいかがでしたか。」を「内容の難易度」、「Q二: テーマを見て想像した内容と実際の内容との関係はいかがでしたか。」を「期待適応度」、「Q三: 講義内容は興味深いものでしたか。」を「興味喚起度」、「Q四: 機材の使用など講義方法に工夫を感じましたか。」を「講義方法の工夫」、「Q五: 配付もしくは提示されたプリント及び資料に満足できましたか。」を「資料満足度」、「Q六: 受講したことで広島大学に対する認識は変わりましたか。」を「認識変化度」、「Q一〇: 他の学生にもこの講義を勧めたいと思いますか。」を「推奨度」とそれぞれ表現する。

まずは全体表によって概観したい。表一と図一に年度別の数値評価の推移を示した。「内容の難易度」は年度により正と負の値にと変動があるものの、振れ幅も〇・二二と小さく全体平均でも〇・〇三とわずかに難しい程度に収まるなど、選択必修の低年次教育としては適切な難易度を維持しているように思える。<sup>5)</sup>「期待適応度」「興味喚起度」「講義方法の工夫」「推奨度」の四項目は、振れ幅が〇・四〜〇・五と他に

表1 最終アンケート数値評価（平均値）の推移

年度	回答数	内容の 難易度	期待 適応度	興味 喚起度	講義方法 の工夫	資料 満足度	認識 変化度	推奨度
2001	21	0.00	1.00	0.71	0.33	0.67	1.19	0.81
2002	15	0.00	0.87	0.73	0.27	0.53	1.13	0.87
2003	55	-0.11	1.11	1.27	0.44	0.62	1.38	1.16
2004	47	0.02	1.17	1.23	0.79	0.77	1.43	1.15
2005	33	-0.09	0.79	0.91	0.67	0.55	1.12	0.91
2006	64	-0.14	1.00	1.03	0.72	0.69	1.16	1.00
2007	55	-0.07	0.85	1.11	0.58	0.56	1.18	0.98
2008	123	-0.05	0.98	0.85	0.60	0.74	1.28	0.89
2009	408	0.08	0.75	0.79	0.54	0.63	1.14	0.77
2010	416	0.07	0.72	0.75	0.44	0.48	1.17	0.86
合計	1,237	0.03	0.82	0.85	0.53	0.59	1.19	0.87

表2 最終アンケートの受講者成績別数値評価（平均値）

成績評価	回答数	内容の 難易度	期待 適応度	興味 喚起度	講義方法 の工夫	資料 満足度	認識 変化度	推奨度
S(秀)	184	0.01	0.85	0.91	0.52	0.64	1.16	0.87
A(優)	583	0.01	0.88	0.90	0.56	0.64	1.24	0.94
B(良)	345	0.04	0.77	0.75	0.49	0.53	1.13	0.78
C(可)	100	0.02	0.63	0.78	0.50	0.43	1.12	0.76
D(不可)	25	0.36	0.72	0.80	0.36	0.60	1.20	0.92

比べて大きく、「講義方法の工夫」を除くと評価が連動しているようにも見て取れる。高い値で推移しているのが「認識変化度」であり、全体平均で一・一九の評価を得ている。このため本稿においてはこの「認識変化度」に特に着目している。

授業に対する評価に関して受講者の成績が関係するかどうかを調べたのが表二の受講者成績別数値評価（平均値）である。これによれば成績が良いほど「期待適応度」「興味喚起度」「資料満足度」「推奨度」

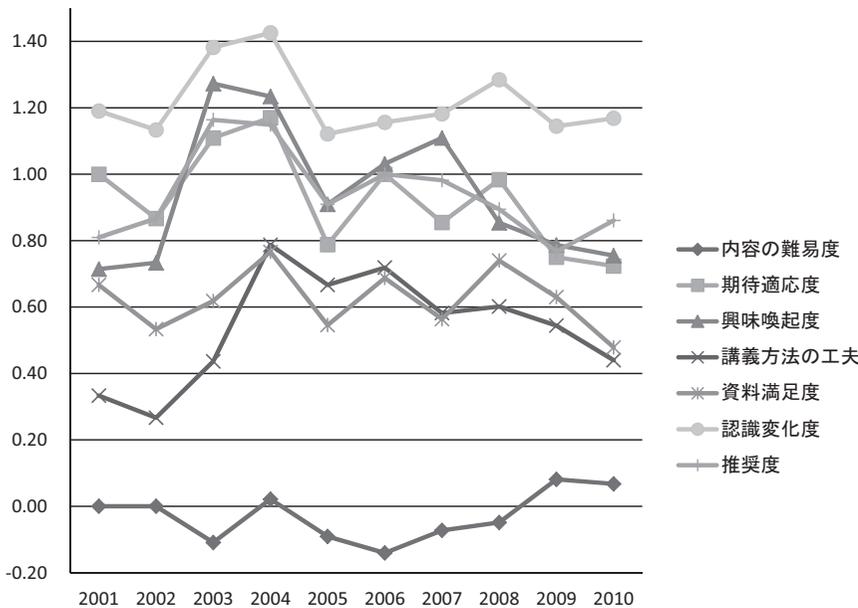


図1 最終アンケート数値評価（平均値）の推移

などがやや高めに出ることが把握できるが、単位を落とした受講者もそれぞれ高く出る項目もあり、一概には判断できない。このためあくまで参考であるが、成績S(秀)・A(優)・B(良)・C(可)・D(不

表6 講義方法の工夫 (年度別)

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	2 9.5%	8 38.1%	7 33.3%	3 14.3%	1 4.8%	21 100.0%
2002	1 6.7%	5 33.3%	6 40.0%	3 20.0%	0 0.0%	15 100.0%
2003	2 3.6%	26 47.3%	21 38.2%	6 10.9%	0 0.0%	55 100.0%
2004	7 14.9%	24 51.1%	15 31.9%	1 2.1%	0 0.0%	47 100.0%
2005	4 12.1%	15 43.5%	13 39.4%	1 3.0%	0 0.0%	33 100.0%
2006	11 17.2%	29 45.3%	19 29.7%	5 7.8%	0 0.0%	64 100.0%
2007	4 7.3%	29 52.7%	17 30.9%	5 9.1%	0 0.0%	55 100.0%
2008	12 9.8%	65 52.8%	32 26.0%	13 10.6%	1 0.8%	123 100.0%
2009	30 7.4%	210 51.5%	120 29.4%	48 11.8%	0 0.0%	408 100.0%
2010	37 8.9%	151 36.3%	188 45.2%	38 9.1%	2 0.5%	416 100.0%

表3 内容の難易度 (年度別)

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	0 0.0%	2 9.5%	17 81.0%	2 9.5%	0 0.0%	21 100.0%
2002	0 0.0%	1 6.7%	13 86.7%	1 6.7%	0 0.0%	15 100.0%
2003	0 0.0%	3 5.5%	43 78.2%	9 16.4%	0 0.0%	55 100.0%
2004	1 2.1%	7 14.9%	32 68.1%	6 12.8%	1 2.1%	47 100.0%
2005	0 0.0%	1 3.0%	28 84.8%	4 12.1%	0 0.0%	33 100.0%
2006	0 0.0%	3 4.7%	49 76.6%	12 18.8%	0 0.0%	64 100.0%
2007	0 0.0%	5 9.1%	41 74.5%	9 16.4%	0 0.0%	55 100.0%
2008	0 0.0%	16 13.0%	85 69.1%	22 17.9%	0 0.0%	123 100.0%
2009	1 0.2%	65 15.9%	308 75.5%	34 8.3%	0 0.0%	408 100.0%
2010	3 0.7%	62 14.9%	311 74.8%	40 9.6%	0 0.0%	416 100.0%

表7 資料満足度 (年度別)

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	4 19.0%	10 47.6%	3 14.3%	4 19.0%	0 0.0%	21 100.0%
2002	1 6.7%	8 53.3%	4 26.7%	2 13.3%	0 0.0%	15 100.0%
2003	3 5.5%	33 60.0%	14 25.5%	5 9.1%	0 0.0%	55 100.0%
2004	9 19.1%	22 46.8%	13 27.7%	2 4.3%	1 2.1%	47 100.0%
2005	4 12.1%	14 42.4%	11 33.3%	4 12.1%	0 0.0%	33 100.0%
2006	9 14.1%	31 48.4%	19 29.7%	5 7.8%	0 0.0%	64 100.0%
2007	6 10.9%	26 47.3%	16 29.1%	7 12.7%	0 0.0%	55 100.0%
2008	23 18.7%	57 46.3%	31 25.2%	12 9.8%	0 0.0%	123 100.0%
2009	44 10.8%	209 51.2%	115 28.2%	40 9.8%	0 0.0%	408 100.0%
2010	35 8.4%	182 43.8%	148 35.6%	49 11.8%	2 0.5%	416 100.0%

表4 期待適応度 (年度別)

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	2 9.5%	17 81.0%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	21 100.0%
2002	2 13.3%	10 66.7%	2 13.3%	1 6.7%	0 0.0%	15 100.0%
2003	13 23.6%	37 67.3%	3 5.5%	2 3.6%	0 0.0%	55 100.0%
2004	13 27.7%	29 61.7%	5 10.6%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
2005	4 12.1%	20 60.6%	7 21.2%	2 6.1%	0 0.0%	33 100.0%
2006	18 28.1%	35 54.7%	4 6.3%	7 10.9%	0 0.0%	64 100.0%
2007	7 12.7%	37 67.3%	8 14.5%	2 3.6%	1 1.8%	55 100.0%
2008	22 17.9%	81 65.9%	16 13.0%	4 3.3%	0 0.0%	123 100.0%
2009	40 9.8%	267 65.4%	61 15.0%	39 9.6%	1 0.2%	408 100.0%
2010	54 13.0%	220 52.9%	116 27.9%	25 6.0%	1 0.2%	416 100.0%

表8 認識変化度 (年度別)

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	6 28.6%	14 66.7%	0 0.0%	1 4.8%	0 0.0%	21 100.0%
2002	2 13.3%	13 86.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 100.0%
2003	21 38.2%	34 61.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	55 100.0%
2004	23 48.9%	21 44.7%	3 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
2005	8 24.2%	22 66.7%	2 6.1%	1 3.0%	0 0.0%	33 100.0%
2006	15 23.4%	46 71.9%	1 1.6%	2 3.1%	0 0.0%	64 100.0%
2007	10 18.2%	45 81.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	55 100.0%
2008	43 35.0%	75 61.0%	2 1.6%	3 2.4%	0 0.0%	123 100.0%
2009	97 23.8%	283 69.4%	18 4.4%	10 2.5%	0 0.0%	408 100.0%
2010	102 24.5%	288 69.2%	20 4.8%	6 1.4%	0 0.0%	416 100.0%

表5 興味喚起度 (年度別)

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	1 4.8%	15 71.4%	3 14.3%	2 9.5%	0 0.0%	21 100.0%
2002	3 20.0%	6 40.0%	5 33.3%	1 6.7%	0 0.0%	15 100.0%
2003	19 34.5%	32 58.2%	4 7.3%	0 0.0%	0 0.0%	55 100.0%
2004	17 36.2%	25 53.2%	4 8.5%	1 2.1%	0 0.0%	47 100.0%
2005	6 18.2%	19 57.6%	7 21.2%	1 3.0%	0 0.0%	33 100.0%
2006	13 20.3%	40 62.5%	11 17.2%	0 0.0%	0 0.0%	64 100.0%
2007	14 25.5%	34 61.8%	6 10.9%	1 1.8%	0 0.0%	55 100.0%
2008	23 18.7%	65 52.8%	29 23.6%	6 4.9%	0 0.0%	123 100.0%
2009	60 14.7%	243 59.6%	64 15.7%	40 9.8%	1 0.2%	408 100.0%
2010	62 14.9%	216 51.9%	113 27.2%	24 5.8%	1 0.2%	416 100.0%

表9 推奨度（年度別）

年度	+2	+1	0	-1	-2	回答数
2001	3 14.3%	13 61.9%	3 14.3%	2 9.5%	0 0.0%	21 100.0%
2002	2 13.3%	9 60.0%	4 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	15 100.0%
2003	17 30.9%	31 56.4%	6 10.9%	1 1.8%	0 0.0%	55 100.0%
2004	13 27.7%	28 59.6%	6 12.8%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
2005	7 21.2%	17 51.5%	8 24.2%	1 3.0%	0 0.0%	33 100.0%
2006	10 15.6%	45 70.3%	8 12.5%	1 1.6%	0 0.0%	64 100.0%
2007	6 10.9%	43 78.2%	5 9.1%	1 1.8%	0 0.0%	55 100.0%
2008	25 20.3%	66 53.7%	27 22.0%	4 3.3%	1 0.8%	123 100.0%
2009	55 13.5%	227 55.6%	104 25.5%	20 4.9%	2 0.5%	408 100.0%
2010	78 18.8%	224 53.8%	94 22.6%	18 4.3%	2 0.5%	416 100.0%

可)をそれぞれ得点九九点、八九点、七九点、六九点、五九点と単純化して相関係数を求めると、「期待適応度」は〇・八〇、「興味喚起度」は〇・七五、「講義方法の工夫」は〇・八〇となり強い正の相関が、「資料満足度」については〇・五二とかなりの正の相関がある数値が出る。また「内容の難易度」はマイナス〇・七三となり、こちらは「難しい」という評価と受講者の高い成績との間に強い負の相関の数値が出る。その一方で「認識変化度」「推奨度」はそれぞれ、〇・一六とほとんど相関は認められない。このことは受講者の期待に応え、興味を喚起することは受講者の成績に影響を及ぼす、もしくは成績のよい受講者は自らの期待内容と授業内容を意識的に摺り合わせ、興味を持って授業に臨んでいるということを示しているのかも知れない。また講義を

受けたことにより受講者は成績に関係なくそれまでの大学に対する認識を変化させ、他の学生にも受講を勧めたいと思うようになっていとも言えそうである。

### (2) 年度別の回答分布の分析

各項目について年度別で数値評価の回答にどのような分布があるかを示したのが表三〜九の各表である。全体の傾向としては「内容の難易度」を除き、いずれも「+1」の回答が過半数を占めていることがわかる。特徴的なのは「認識変化度」であり、これについては「+2」が二〇〜三〇%を占めている。このことにより「認識変化度」の平均値が上がっているのである。

### 三. 受講による広島大学に対する認識の変化について

ここでは「受講したことで広島大学に対する認識は変わりましたか」との問いに対し、認識が変わったと回答した受講者の変化の理由についてみることにする。設問への回答の状況は表一〇に示したとおり。一〇年間の総数で一、四〇二人の回答があるうち、分析対象となる二二名の回答は一、二三七人分で、「とてもそう思う」が三二七回答(二六・四%)、「そう思う」が八四一回答(六八・〇%)であり、二年生の九四・四%が認識が変わったと回答していることになる。また認識が変わった理由について表一一にその内訳を示した。<sup>6)</sup>

(1) とても変化したと思う理由

まずは「とてもそう思う (+2)」と回答した者の理由について見ていくこととする。最も多い回答は、自校に対する知識・情報が増えたことで認識が変わったとするものである。このような回答は三二七回答中に二七一回答あり、認識変化理由の大半を占めている。「現在の広島大学の成立における本来私たちの知り得ない情報を入手できた点です。」(経済・男・二〇〇一)、「この講義を受けるまで広島大学について知らなかったことを知ることができたから。(法・男・二〇〇三)、「今まで広島大学について何も分からずに、ただ通っていましたが、歴史を学んだことで学校に対する認識が変わりました。」(法・女・二〇〇六)、「広島大学の設立過程や、広島大学の教員等、この授業を履修しなければ得られなかった知識がたくさんあったから。」(教育・男・二〇一〇)などの回答がある。

また、知識・情報が増えたことに近いが、次に示す回答のように、「わかった」「理解した」などの語をキーワードとして、大学への理解が深まったとする回答が五六回答あり、二番目に多い。「広大の歴史は旧帝大のようになろうと

表10 広島大学に対する認識が変化したかどうか (10年間全データ)

回 答	1年	2年	3年	4年	5年以上
とてもそう思う	17	327	24	7	3
そう思う	36	841	49	22	2
どちらでもない	1	46	1	0	0
そう思わない	1	23	2	1	0
全くそう思わない	0	0	0	0	0
合 計	55	1,237	76	30	5

表11 認識が変化した理由

回 答	回 答 数	分 類 項 目								
		知識を得た	理解した	思考・発想を変えた	誇りを感じた	興味関心を覚えた	実感できた	愛着が湧いた	疑問が解決した	その他
とてもそう思う	327	271	56	56	20	19	18	8	5	5
そう思う	841	704	108	66	32	25	21	11	5	11

表12 認識が変化しない理由

回 答	回 答 数	分 類 項 目				その他
		同じ認識だった	知識は増えたが認識は変わらない	実感がなかった	関心が湧かなかった	
どちらでもない	46	11	15	6	4	11
そう思わない	23	14	4	1	0	4

する歴史である事がはつきりわかったから。〔法・男・二〇〇三〕「広島大学が他大学に誇れる多くのものを持っていることが分かったから。〔法・男・二〇〇四〕「広大のことを大変多く知ることができた。

これまであまり深く考えたことはなかったけど、受講したことでこんなにも広大が伝統深いものだとかわかったのうれしかった。今後も今以上に大きく発展して欲しい。と思うようになった。〔経済・女・二〇〇八〕、「広島大学が現在の形に至るまでに紆余曲折の歴史があり、すべてが今の特徴につながっていることがわかったから。〔教育・男・二〇一〇〕などの回答がある。

同じく二番目に多いのが、知識を得て認識を変えるだけでなく自身の思考・発想についても変化を自覚し、自らの行動に結びつけようとする能動的な回答であり、五六回答があった。「今まで広島大学の歴史など全く認識せずに生活してきたが、この講義を受けることでいろいろ新しい発見をすることができ、さらにこの大学をもっと良くするために自分に何ができるだろうと考えることができたから。〔学生・男・二〇〇八〕、「この授業をとらなかつたら、知らないまま大学生活を終えてしまうことを知ることが出来たから。例えば、キャンパスに緑が多い理由や、両生類研究センターや放射線研究センターなどがあった歴史的背景などがある。これらの存在は知ってはいしたが、どういった経緯で設立されたのかなどは考えたことがなかった。キャンパスの緑の多さについても同様で、キレイで広いキャンパスだ、くらいにしか思っていなかった。この講義で認識が変わり、先人からのメッセージであると感じることができた。〔理・男・二〇〇九〕、「広島大

学で学ぶことができるのがいかに幸せなことがわかり、この機会を絶対に無駄にしないように一日を大切に生活をしていこうという認識をもちました。〔経済・男・二〇一〇〕、「広島大学は東京の大学にどうあっても劣っているかと思っていたが、自分の次第かなと思っただの。〔教育・女・二〇一〇〕などの回答がこれに相当する。

四番目に多い回答が、受講によって誇りを覚えたり自信を得たりするものであり、二〇回答があった。「何もセールスポイントのない地方大学だと思っていました。誇れる理念がありました。〔法・女・二〇〇三〕、「広島というと原爆のイメージがあり、それは県外から来たわたしには身近に感じにくいものですが、広島大学の設立やその背景、地域との連携の歴史を見ていく中でいたく感動したからです。

自分がこの広島大学生であることに、とても誇りを感じます。〔工・女・二〇〇八〕、「当初広島大学のことをどう思っているという認識すらなく、よい形で広島大学について教えてもらったことで、誇りに近い認識が芽生えた。〔経済・男・二〇〇九〕、「広大生であることに、若干の劣等感を他大学生にたいして感じていたけど、広大のすごさや他大学と違うところを知って誇りを持つようになったから。〔学生・女・二〇一〇〕などの回答がある。単なる自校礼讃に陥ってしまっているのであれば危険であるが、本意入学生や必要以上に劣等感を抱く学生の救いとなったのであれば、低年次教育での一つの役割を果たせているのかも知れない。

五番目に多いのが、次に示すように受講をきっかけに大学自体への興味・関心が生じたという一九回答である。「歴史を知る事を通して、

広大の今に興味を持てるようになったから。大学自体のこれからの課題も見いだせたと感じた。〔法・女・二〇〇三〕、「広島大学に在学しているけれども、実際広大のことについては何も知らないことを受講を通して実感した。そして広島大学に以前より興味をもった。〔経済・女・二〇〇九〕、「わりと大学のことを知っているつもりでしたが講義を受けて全然知らなくて驚きの一面を知ることでき広島大学により興味を持てるようになりました。〔理・男・二〇一〇〕、「この講義を受けるまでは正直なところ、広島大学の歴史にはあまり興味はなかったが、この講義を受け、広大の歴史を学び広大に対しての見方が変わったように思える」〔工・男・二〇一〇〕、「温故知新ではないが、先人たちが広島大学にどんな思いや考えをもっていたのか知り、そのような広島大学に通えていることに自信や誇りが持てるようになった気がするから。〔法・男・二〇一〇〕」などがある。

また、受講したことによって歴史に実感を覚えたり大学への親近感を覚えたりするとしたものが一八回答あった。「実際に大学で働いておられる方の話を聞くと、あまり資料などだけでは実感できなかったことも身近に感じたためです。大学図書館についてなど、あんなに学生のことを想っ下さっていると知って、もっと利用したいと思うようになりました。〔教育・女・二〇〇二〕<sup>7</sup>、「広島大学ができた歴史などを学んだときに、広島大学成立のためにがんばった人々の熱意が伝わってきたから。〔理・男・二〇〇七〕、「広島大学の奥深さを実感したから」〔文・女・二〇一〇〕」などの回答がある。

そしてその実感や親近感が、さらに愛着や愛校心といった言葉とし

て表れているものが八回答あった。「今となつてはそれほど特色というものが見られなくなつてしまつたものの、過去の非常に誇れる理念、個性的な歴代の学長を知ることができ、広島大学にも誇れるものがあることを実感しました。今まで大学について関心は無かつたものの、自分の大学について語れることができるようになったことで、母校愛に目覚めた気がしました。〔工・男・二〇〇四〕、「以前は、大学は授業を受けるためのものだと思つていて特に愛着もありませんでしたが、大学の設立や運営に関わつた方々の存在を知って、心なしか愛着が湧いてきたような気がします。〔法・女・二〇〇六〕、「広島大学について知らないことがたくさんあり、講義をうけて広島大学の源流からたどっていくことで、よりこの大学に愛着がわき、同時にもつとよい大学へ変えていくべきところもあることなどを認識できた。〔文・女・二〇〇八〕、「広島大学設立から現在まで、この大学が経てきた事件（大学紛争など）や、どのような人物が携わつてきたかを知ること、何となく通つていた大学に愛着がわいたため。〔法・男・二〇〇八〕、「広島大学の前身やどのように西条に移転してきたのかを知ることでさらに広島大学への愛校心が深まりました。〔教育・女・二〇〇九〕、「広島大学には長い歴史があり、多くの人の苦勞があつて今の広大があるのだということが分かつたから。今まで何気なく見ていたシンボル塔や大学旗も、講義を受ける前と受けた後とはまったく違い、いろんな人の想いが詰まっているのだと愛着を持つてるようになった。〔文・女・二〇〇九〕」といった回答がある。

ところで、表一一の分類とは別になるが、講義内容には当然の事な

から客観的事実とともに大学の不祥事を含めた裏の面も扱うことになる。このためマイナスイメージを与えた効果もあり、五回答が認められた。「広島大学が実は寄せ集めて作られた大学であったことなどマイナスイメージが強くなった」〔経済・女・二〇〇三〕、「講義開始前は、広島大学は非常に地域から信頼されていて、華やかな大学だなと思っていたが、そのような広島大学にも問題点はたくさんあることを知り、普段聞けない広島大学の裏話も知ることができた。広島大学は必ずしも「完璧」というわけではないことを知った。」〔経済・男・二〇〇七〕などの回答があり、ごく一部の受講者には大学への失望を与えてしまっていたようである。

その一方で、裏も表も包み隠さず提示することにより、むしろ客観的な理解をすることができたと言及的に受け取ったものも一〇回答あった。「大学の歴史について全く認識のないまま入学して今に至っていたので、この講義を受けて広大の良い面・悪い面も含めて大学というものを違った視点からとらえることができたから。」〔学生・男・二〇〇九〕、「以前はわりと無関心だったので、広島大学のよいところも悪いところも知れて、自分の大学に興味を持てた。」〔総科・女・二〇〇九〕、「このセメスターを通して受けた講義の中で、広島大学のメリット、デメリットがはっきりと理解できたことよって、広島大学がどのくらい全国の大学の中での優位的にいるか、また、今後私達たちがどのように広島大学の優位性を維持し、デメリットを克服したうえでさらに優位性を高めていくべきかが明確に分かったから。」〔法・男・二〇一〇〕、「大学受験をする際は、どの大学も良いところ

ばかり見ていましたが、実際在籍するようになった大学の「真の姿」を知ることが、これから大学生活を送る上で明確な目標や方向性を決める手立てとなると思ったから。」〔教育・女・二〇一〇〕、「広島大学」というものに対して今までほぼ無関心だったが、講義を通して広島大学の他大学と比べた特色や、教養部設立の際のどろどろした話や被爆した建物の一部を今も生かしている点、東広島キャンパスには門がないという話など良いことも悪いことも聞くことができて大学に愛着がわいた。そこが自分の中で最も変わった点。」〔文・女・二〇一〇〕など、表面的な大学説明を超えた授業内容に受講者は啓発され、客観的に周囲を見つめ直し、それまでの大学と自分自身との関の希薄な距離感を埋めるきっかけを掴んだと言えるのかも知れない。良い情報も悪い情報も包み隠さず提供することの真意を受講者が汲み取ってくれているのは有難くもあり、頼もしくもある。

## (2) 変化したと思つ理由

続いて回答に「そう思う(+)」と回答した者の理由について、前節と同様に見ていこう。

まずは自校に対する知識・情報が増えたことで認識が変わったとするもので、八四〇回答中に七〇四回答があった。「今まで広大生なのにもかかわらず広大のことについてほとんど意識していなかったが、この講義を受講して広大に関しての知識がついたと思うし、これまでと違った視点で広大を見るとができると感じたから。」〔経済・男・二〇一〇〕、「ある程度広島大学の知識はあったが普通に生活している

だけでは得られないような知識をえることが出き、非常に為になった。」「教育・男・二〇〇四」、「知らなかったことも知れたし、今までの認識がはつきりと間違っていると事実として分かった点もあるから」(理・男・二〇〇八)、「前はなにも知らなくて、大学のことは全然気にならなかつたです。どうでもいいみたいな感じで授業を受けました。しかし時間とともに授業の内容はある程度で面白くて、大学に関する認識は少しずつ変わってきました。」「工・女・二〇一〇」、「例えば、設立当初に外部とも内部でももめたということは知りませんでした。大学の歴史というところまらなそうだなと思っていましたが、具体的にどんなことがあったかを聞いていて、想像していたのよりはるかに面白かったです。」「法・女・二〇一〇」、「私が広島大学に関する認識を最も変えた内容は、広島大学が東広島キャンパスに移転した理由です。」「広島大学は広島市内にあれば…」という意見の大人が私のまわりに何人かいて、その意見を私も鵜呑みにしていたのですが、移転した理由を知り、東広島キャンパスに移転してよかつたと思ふことができました。」「教育・女・二〇一〇」、「普段過ごしていたのは、なかなか知ることができなかったことを知ることができたから。(サタケと広島大学との関係や、校章が生まれた経緯、歴代学長の偉業や前身校の様子など、ほぼ全ての講義で新しい発見があった。)」(法・男・二〇一〇) などである。

大学への理解が深まったとの回答は一〇八回答があつた。「正直この大学にいなながら、この大学の理念とかそういういたものをひとつも理解していなかつたのでそれらを知ることができたため、ある程度認識

が変わりました。」「(総科・女・二〇〇五)、「広島大学についての認識は、教育系が強いということと総合科学部という特殊な学部による教育の多様化というくらいしか考えたことはなかつたけど、教育系が強い理由がよくわかつたり、総合科学部にもよい点だけでなく問題点もあるのだといことを知つたりして、より深い認識につながつたと思うから。」「(理・女・二〇一〇) など、何気なく過ごしていた大学に対し新たな発見をしたり、自身の従来の認識に確信を得たりもしている。

自身の思考・発想についても変化を自覚した回答は六六回答があつた。「広島大学について知らないことばかりで、特に学生はもっと高い意識を持たなければならぬと感じたから。」「(教育・男・二〇〇七)、「過去の広島大学の歴史を学ぶことで今度は自分たちが歴史を創つていけないといけないなど実感するようになった。」「(法・男・二〇〇八)、「西条という街が広島大学により変化した、変化してくれたという事実を知り学生の街としてのありがたさを感じると共に、この場所を選んだ広島大学の方々にも感謝している。また、広島大学の今の形、体制になるまでの歴史を知らずに広大学生として大学に通うのは変な気がした。」「(教育・女・二〇〇九)、「今まで知ることができなかった大学の裏側や、過去の経歴などについて知ることができ、考える機会を与えていただいたから。」「(工・男・二〇〇九)、「広島大学について、自分だけなら考えることのないことについても講義を聴くことができ、それが考えるきっかけになつたからです。(学生生活の講義が特にそうでした。)」(工・女・二〇〇九)、「国際化や原爆について考えて、広島大学生である私達がもっと努力して広島大学に貢献していかな

てはならないなど深く考えさせられたから。〔理・女・二〇〇九〕、「広島大学の成立までの歴史や、その目指している方向性などについて、学習することができて、これから、広島大学生として生活する上で、心構えについてより深く考えていこうと思ったため。〔教育・男・二〇〇九〕」などである。

誇りを覚えたり自信を得たりしたのも三三二回答があった。「今まで広島大学は旧帝大でもないし、学歴コンプレックスになるような大学だと思っていたが、講義で広島大学のことを学び少しは誇れる大学かもしれないと思うことが出来た。〔生生・女・二〇一〇〕」、「広島大学には明確な理念があるということがわかり、広島大学で学んでいるということに誇りを持てるようになったから。また、身の回りの建物や彫刻にも意味が含まれていることがわかり、ふだんの生活の中で見かけるものの方も見方も変わったから。〔教育・女・二〇一〇〕」、「大学というものは、どこも大差はなく、ただ入るときの学力差だけがあるものだと今までは考えていたのですが、実際はそういうわけではなく、広島では、フェニックスや国際活動など、他の大学に誇れるものがあると学んだからです。〔工・男・二〇一〇〕」などがある。

大学自体への興味・関心を抱いたとの回答は二五回答があった。「タダ単に通っているよりも、その成り立ちなどを知ることによって大学への関心が深まったから。〔工・男・二〇〇三〕」、「自分の知らなかった広大の歴史を学ぶことで関心が増えます湧いたし、大学のつみあげられてきた裏舞台が分かって満足ができたから。〔教育・女・二〇〇九〕」、「自分の学校について関心が増えました。〔工・男・二〇一〇〕」などが

ある。

歴史に実感が湧いたり大学への親近感を覚えたりするといったものは一一回答があった。「初代からの学長の大学に対する熱意に共感し、感動したから。〔工・男・二〇〇一〕」、「自分の大学が身近に感じられるようになった。〔文・男・二〇〇三〕」、「今まで自分が通う大学のことを全く知らなかったことに気づきました。学生のために大学側がいろいろな苦勞・工夫をしてきたことが分かり、改めて広島大学に通うことに誇りを持てるようになりました。〔総科・女・二〇〇五〕」、「歴史的な観点を見ると、多くのできごとがあり、それを経ての現在の広島大学であることを考えると、いろいろと感慨深いものがあると感じました。〔工・男・二〇〇九〕」などがある。

### (3) どちらでもない理由

回答に「どちらでもない(0)」と答えた者は四六人あった。そのうち理由として最も多かったのが、知識は増えたが認識が変わるほどではなかったというもので一五回答があった。「変わったというより新しいことを知ったというかんじです。〔経済・女・二〇〇五〕」、「広大の歴史や特徴は理解できたが、それが直接的に広大に関する認識に影響したかは分からないと思ったから。〔理・男・二〇一〇〕」、「認識が変わるといっても豆知識がついたという気持ちだから。〔工・男・二〇一〇〕」などがそれにあたる。補足すると一五回答の内九回答は「授業を受けたことにより広島大学についてたくさんを知り、広島大学に対する印象がかわりました。〔理・男・二〇〇九〕」、「大学

の設置にあたってとても多くの意見の衝突の末に今の広大があることがわかったから。」「(工・男・二〇一〇) などと知識を得たことを肯定的に記述し、一回答は「ただの知識として頭の中に入った」(理・男・二〇一〇)と否定的に記述しているが「どちらでもない」を選択している。

次に多い回答がすでに知っていた大学に対する認識とあまり変わらなかったというもので一回答があった。「想像していたとおりの広島大学の姿だったから。」「(生生・男・二〇〇九)、「講義を受けた後も広島大学は歴史ある大学だという認識は変わっていない。」「(工・男・二〇〇九)、「期待通りの講義だったから」(工・男・二〇〇九)、「自分は入学する前広島大学をとてすばらしい大学とっていてそれが予想通りだったから」(生生・男・二〇〇九)、「広大については、大学パンフレットやホームページで、ある程度知っていたため。」「(教育・男・二〇一〇)、「結構知っていたから」(理・男・二〇一〇)、「広島出身の私にとっては、入学前からある程度広大のイメージがあり、それに反するような内容があまりなかったため。」「(法・男・二〇一〇)など。この意見が多数となれば大学の広報戦略やA〇入試の取り組みが効果的に行われていることを意味するだろうし、自校史教育の需要は失われるものとも思われる。

知識は得て理解もしたが、具体性や実感に欠けるのでどちらでもないとする意見も六回答あった。「私としては、もう少し具体的な話を期待しました。」「(文・男・二〇〇四)、「大学の具体的な運営方法や特色を知ることができたが、自分自身が大学生活の中でそれを実感でき

ないので。」「(法・女・二〇〇四)、「広島大学の歴史を知ることが出来たしこの大学がどんな大学かを知ることが出来たが、あまり大学に居て実感することはないから。」「(工・男・二〇一〇)など。

また、「特に関心の持てる内容ではなかったから。」「(工・男・二〇〇九)、「興味をもてる分野と、もてない分野がはっきりとしていて、興味をもった分野のときしかあまり関心をもって、講義をうけていなかったから。」「(教育・男・二〇〇九)などのように半期を通して授業内容に興味を抱けなかった意味の回答も四回答あった。

その他として、詳細は不明であるが、「想像と違った。」「(工・男・二〇〇九)あるいは、「プリントにも授業の進め方にも不満はなかった。」「(工・男・二〇一〇)といった回答があった。「詳しいとも難しいともあったから」(理・男・二〇一〇)、「物事には様々な歴史はつきものであり、それで認識が変わるのは少し軽率だと思ったから。」「(文・男・二〇一〇)、「どこの大学でもいろんな歴史があって当然だから」(経済・女・二〇一〇)といった冷静な意見を述べるものもあった。また「あまりこれからの僕の歴史において、広大の歴史というものは小さかったから。」「(生生・男・二〇一〇)というものなど、一一回答が存在した。

#### (4) 変化しなかった理由

「そう思わない(一)」と回答した者は二三人あった。その理由として最も多いのは、すでに知っていた大学に対する認識とあまり変わらなかったというもので一四回答があった。「特に驚くことを知った訳

ではなかったから。」「総科・男・二〇〇一」、「特に認識が変わるような印象的なことがなかったから。」「工・男・二〇〇五」、「いろいろなことは知れたが、それによって認識が変わることはなかった。」「教育・女・二〇〇六」、「広島大学について詳しく分かったからといって何かが変わるわけではないから。」「理・男・二〇〇八」、「だいたい予想通りだったから。」「工・男・二〇〇八」、「受講する前に持っていた広島大学のイメージと大きな違いがなかったから。」「経済・女・二〇〇八」、「知っている内容ばかりだったから。」「理・男・二〇〇九」、「授業内容が予想どおりだったから。」「生・男・二〇〇九」などがある。

また、「いろいろなことは知れたが、それによって認識が変わることとはなかった。」「教育・女・二〇〇六」、「広島大学について詳しく分かったからといって何かが変わるわけではないから。」「理・男・二〇〇八」、「知識は増えたけれど、認識は今までと変わっていないと感じるから。」「総科・女・二〇〇九」など、知識は増えたが認識は変わらないという回答が四回答あった。

その他特殊な背景を持った意見としては「親戚に旧制の広大出身者が多かったので、その体験談などを聞いていたから。」「法・男・二〇〇九」といったものもある。また授業内容への不満として「多少なり内容を工夫されている講義もあったが、その他のほとんどが歴史的事実の説明のみに終わっているように思えた為。」「文・男・二〇〇九」、「興味のあることについての部分が、あまり授業で触れられなかったです。学生と広島大学のふたつの視点で授業をしてほしいかったです。」「工・男・二〇〇九」といったものがあった。「授業内

容は広大の昔の話が中心だったので、実際自分の生活に関わるようなことはあまりなかったから」「理・男・二〇〇九」との変則的な要望も混じっているが、それぞれの趣旨を汲み取って可能な限り内容の改善に努めたいところである。これらの四回答はその他に分類した。

「広島大学に関しての知識は得られたが、もともと大学に対して、いい意味でも悪い意味でも執着を持っていなかったので、認識が変わる、というところまではいかなかった。でも、受講前に比べ、大学そのものに少しは興味を持てるようになったと思う。」「文・女・二〇一〇」との感想を寄せるものもあり、認識の変化の有無を問わず、受講者に大学に対して関心を抱かせることはできた点は、授業提供者として救われる思いである。

## おわりに

受講者の広島大学に対する認識変化を中心に、アンケート内容を考察した。

数値評価においては、マイナス二からプラス二までの五段階評価で、テーマを見て想像した内容と実際の内容との関係（期待適応度）については全体平均で〇・八二、講義内容は興味深いものだったか（興味喚起度）については同じく〇・八五、機材の使用など講義方法に工夫を感じたか（講義方法の工夫）については〇・五三、配付もしくは提示されたプリント及び資料に満足できたか（資料満足度）については〇・五九、受講したことで広島大学に対する認識は変わったか（認識

変化度)については一・一九、他の学生にもこの講義を勧めたいと思うか(推奨度)については〇・八七との評価を得た。

これらの評価の数値は必ずしも高い値とは言い切れないものの、全項目で見れば推奨度が高いことと、前稿でも述べた受講希望者が年々増えていることを合わせて考えれば、受講者の期待に十分に因應られているものと判断できよう。恐らく最終アンケートの設問にある、この講義で「良かったこと」「改善すべきこと」、「最も興味深かった講義内容」、「理解できなかった内容」、「もっと知りたかったこと」などの自由記述を更に詳細に検討すれば、その答えはもう少し明確に分かるかも知れない。これについては稿を改めて検討したい。

いずれにせよ今回検討した認識変化度の突出した高さが自校史教育の人気を下支えしているとみて間違いはないだろう。そのことは受講した一、二、三七人の二年生のうちの九四・四%が認識が変わったと回答している数量的な把握からも、受講者の回答の文面からも明らかである。

また、認識の変化について「どちらでもない」、あるいは「そうは思わない」との回答に着目すれば、その理由として「同じ認識だった」との回答が後者ほど実数が多く、割合としても多いという事実がある。受講者自身が受講前に抱いていた大学に対する認識と受講後に確認する認識との間に差異があればあるほど認識変化度が高いということとは至極当然のことである。しかしこれは逆に言えば、ある程度自校史に関して事前知識のある受講者にとってはなんということもない基本的な自校史の事実が、大多数の受講者にとってはとても意外性が高く感じられるということになる。

すなわちそれほどまでに受講者は自校に関する歴史的事実を知らないし、知らされる機会がなかった、そして必然的に自校史に対して興味の抱きようがなかったのである。「今まで知らなかった広島大学についてのたくさんさんの事項について知ることができたし、今まで自分が広島大学について何も知らなかったことに気づかされた。入学してからもう一年が経過してしまっただが、改めて広島大学に興味を持つことができたので、これを機会にもっと自分なりに調べたり、また、他の友人にも得ることのできた知識を広めていきたいと思った。」(法・女・二〇一〇)という回答などは、そのことを如実に物語っていると思われる。受講者は、単純にその知識が増えることに対して興味を抱いているとともに、より大学や社会を身近に感じるためのきっかけを必要としているのである。その糸口が自校史教育にあるとすれば、その役割は大きく重いものだと言えよう。

注

- (1) 小宮山道夫「大学生の自校史教育受講に対する期待と需要に関する考察」『広島大学文書館紀要』第一三三号、二〇一一年、一〇四〜一二四頁所収。なお、本稿で扱ったデータを含む一〇年間の記録として、広島大学文書館大学史資料室編『広島大学自校史教育実施報告書二〇〇一〜二〇一〇』(上巻二〇一一年、下巻二〇一二年)を刊行している。あわせて参照願いたい。
- (2) アンケート内容は一〇年間基本的に変更はないが、二〇〇一年度のみは設問一(Q一)として受講理由をたずねている。このため設問番号

の表記のみは変更している。

- (3) 前稿において、「二〇年間の受講生全一、八六四人分（再履修の重複者六七人、のべ一四八八人分を含む）のデータから二年次生一、五二四人分（同じく四人、のべ八八人分および単位不要または不履修者一五人分を含む）のデータ」と記載したが、同姓同名者の処理に一部誤りが存在した。正しくは「二〇年間の受講手続き者全一、八六四人分（うち二一人は中途にて受講取消のため受講者総数は一、八四三人。再履修の重複者六二人、のべ一四〇人分を含む）のデータから二年次生一、五一八八人分（重複者なし）のデータ」となる。お詫びして訂正させていただく。ただし前掲「大学生の自校史教育受講に対する期待と需要に関する考察」のアンケート分析においては当初より受講取消の二一人のデータは除外しており、二年生に限定しているため重複者もデータから除外している。このため考察内容に変更はない。
- (4) アンケートは最終レポート提出後に専用のWEBページにより回答・回収した。
- (5) 設問一は正の値を「難しい」、負の値を「易しい」と設定しているため、〇・〇三はわずかに難しいということになる。中央値は〇で、他の設問の中央値はすべて一である。
- (6) 自由記述のため回答上の文字情報のみから判断して筆者の読解に基づき振り分けを行った。極力意味合いを汲み取るよう努めてはいるが、厳密な意味で受講者の回答の意図を汲み取ることはできない点は留意願いたい。また、内容に応じて他の分類と重複して計上することがある。このため各分類の数値を合算しても回答総数とは一致しない。

- (7) 二〇〇一年度と二〇〇二年度のみであるが、「図書館の歴史と司書のつばやき―蔵書三〇〇万冊とコンピュータの狭間で―」と題して図書館職員で広島大学五十年史編集委員会幹事会幹事（当時）の板垣護人氏による講義内容を提供していた。この経験が後に総合科目「広島大学のスペシャリスト」の開講へとつながっていく。

（こみやま みちお・広島大学文書館）